

防コミの歩き方



“防災でのおもてなし” JICA研修員がBOKOMIを訪問

神戸市消防局では、阪神・淡路大震災の教訓から生まれた神戸市独自の取り組みである「防災福祉コミュニティ」の概念及び活動を「防コミの世界発信事業」と位置付け、各国に紹介しています。その一環として、1月7日から2月14日までの39日間、公益財団法人神戸国際協力交流センターとともにJICA研修「コミュニティ防災（B）」コースを実施しました。

●10カ国から18人が参加しました

各国の中央政府・地方政府において、住民主体による自主防災組織の設立やコミュニティ防災活動を推進する立場にある行政官らを対象に、神戸市独自の取り組みである「防災福祉コミュニティ」の訓練・活動を視察、体験し、その設立・運営などに関する意見交換をおこなうことで自助・共助の概念を理解したうえで具体的なアクションプランを作成し、帰国後自国において自然災

害に対するコミュニティ防災力の向上に役立てることを目的としています。今回の研修では、ブラジル、コロンビア、グアテマラ、カザフスタン、ニカラグア、フィリピン、マケドニア、東ティモール、ベネズエラ、マレーシアから研修員が来日しました。

●東遊園地にて

研修期間中の1月17日には、東遊園地の阪神・淡路大震災メモリアルモニュメントにて研修員全員が記帳及び献花をおこないました。

●3つの訓練を体験しました

防コミ訓練の運営を学ぶため、魚崎町防災福祉コミュニティ、若鷹・ひだまり公園市民消火隊、花谷防災福祉コミュニティの訓練に参加させていただきました。

震災教訓から生まれたBOKOMI活動が各国に広がり、減災につながればと思います。
(予防課 大津暢人)

